

これはアストラゼネカ英国本社が2005年4月28日に発信したプレスリリースの日本語訳です。  
日本で未発売の製品については英語標記のままとします。

## AstraZeneca PLC 2005年第1四半期業績

**「四半期利益で過去最高、当期1株当たり利益は33%増、売上は9%増」**

ファイナンシャルハイライト (国際財務報告基準に準じて財務諸表を作成)

| グループ    | 第1四半期<br>2005<br>100万ドル | 第1四半期<br>2004<br>100万ドル | 前年同期比<br>% | CER<br>% |
|---------|-------------------------|-------------------------|------------|----------|
| 売上      | 5,743                   | 5,074                   | +13        | +9       |
| 営業利益    | 1,453                   | 1,052                   | +38        | +34      |
| 税引き前利益  | 1,486                   | 1,084                   | +37        | +34      |
| 1株当たり利益 | \$0.63                  | \$0.47                  | +34        | +33      |

伸び率は恒常為替レートベース (CER)

- 第1四半期の売上は9%増の57億4,300万ドル。主な成長製品の売上は33%増。
- 生産性は継続的に向上。研究開発費および販売・一般管理費は合計で4%減。
- 第1四半期の営業利益は34%増の14億5,300万ドル。
- 第1四半期のキャッシュフローは13億2,200万ドル；第1四半期に買い戻された株の総額は4億8,100万ドル。
- Nexium™ の第1四半期の売上は11%増の10億5,500万ドル。2005年3月31日に静脈投与製剤が米国で承認取得。
- クレストールの第1四半期の売上は2億7,300万ドル。過去12ヶ月の売上は10億5,200万ドルに到達。
- セロクエルの第1四半期の売上は39%増の6億3,300万ドル。
- アリミデックスの第1四半期の売上は49%増の2億5,600万ドル。

最高経営責任者トム・マキロップ卿は次のように述べました：「記録的な利益の達成は、特に主要成長製品の堅調な売上、ならびに開発および販売・一般管理における継続的な生産性改善によるものです。素晴らしいスタートにより今年の財務目標達成に向けての軌道に乗ったと考えています。」

2005年4月28日 ロンドン発

Media Enquiries:

Steve Brown/Edel McCaffrey (London)  
Staffan Ternby (Södertälje)  
Rachel Bloom-Baglin (Wilmington)

(020) 7304 5033/5034  
(8) 553 26107  
(302) 886 7858

Analyst/Investor Enquiries:

Mina Blair (London)  
Jonathan Hunt (London)  
Staffan Ternby (Södertälje)  
Ed Seage/Jörgen Winroth (US)

(020) 7304 5084  
(020) 7304 5087  
(8) 553 26107  
(302) 886 4065/(212) 579 0506

## ビジネスハイライト 伸び率は恒常為替レート (CER)

第1四半期の売上は恒常為替レートベースで9%増、報告ベース（為替のプラス影響4%を含む）で13%増でした。米国以外の売上は9%増でした。米国の第1四半期の売上は10%増でしたが、在庫変動調整（主に2004年第1四半期の卸在庫増）後の売上成長率は17%と推定されます。

研究開発費および販売・一般管理費は引き続き良好に管理され、業績にプラスの影響を与えました。合計で、これらの経費は恒常為替レートベースで2004年第1四半期を4%下回りました（報告ベースでは概ね変わらず）。営業利益は34%増でした。第1四半期の1株当たり利益は、2004年度の0.47ドルに対し、2005年度は0.63ドルと33%増でした。

Nexium™ の第1四半期の売上は11%増の10億5,500万ドルでした。米国における調剤錠剤量は15%増でしたが、2004年第1四半期に生じた卸在庫増の影響で、報告ベースの売上は3%増にとどまりました。Nexium™ の米国以外の売上は30%増でした。

クレストールの第1四半期の売上は、前年同期の売上の2倍以上となり、2億7,300万ドルでした。3月には、米国のスタチン市場の新規処方におけるクレストールのシェアは6.0%となりましたが、2005年1月には同シェアは5.8%でした。3月14日に、米国食品医薬品局（FDA）は、臨床試験安全性データおよび市販後データの詳細分析に基づき、パブリックシチズンのヘルスリサーチグループ（HRG）によるクレストールの販売中止要求を正式に却下しました。FDAはその正式回答において、クレストールは添付文書に準拠して使用されれば、安全かつ有効であることを再確認しました。

イレッサの第1四半期の売上は8,100万ドルでした。アジア太平洋地域における売上は18%増でしたが、これには2月に発売を開始した中国の売上も含まれます。日本の売上は8%減でした。米国の売上は、ISEL試験結果の発表以降41%減少しました。米国では、FDAがISEL試験結果の全データの評価を完了するまで、イレッサのプロモーションを自主的に中止しています。

第1四半期に良好な売上を達成したのは、Symbicort™（23%増）、カソデックス（16%増）、セロクエル（39%増）、アリミデックス（49%増の2億5,600万ドル）でした。米国では、乳がんのホルモン療法におけるアリミデックスの新規処方シェアが3月に31.4%に達し、2004年12月より1.3ポイント上昇しました。

## 今後の見通し

当社は、引き続き通年の1株当たり利益を2.35ドルから2.50ドルの間と予想しています。昨年度の四半期ベースの利益の推移とは対照的に、2005年の1株当たり利益の成長率は、下半期よりも上半期のほうが高いと予想されます。

**注意：当社の利益やビジネスの見通しに対する上記の予測的な記述はリスクや不確定要素をともなっており、実際の結果はこれらと大きく異なる可能性があります。たとえば、米国におけるオメプラゾールの後発品の売上伸び率、既存製品の継続的成長（特に、クレストール、Nexium™、セロクエル、Symbicort™、アリミデックス、カソデックス）、コストや経費の増加、利率の動き、為替レートの変動、税率などがリスクや不確定要素です。これらやその他のリスクや不確定要素については、2004年アニュアルレポートForm20 - Fを含む証券取引委員会への有価証券報告書をご覧ください。**

## 売上

伸び率は恒常為替レートベース (CER)

### 消化器

|                                | 第1四半期 |       | CER % |
|--------------------------------|-------|-------|-------|
|                                | 2005  | 2004  |       |
| Nexium™                        | 1,055 | 935   | +11   |
| Losec™ / Prilosec™<br>(オメプラール) | 427   | 540   | -25   |
| 合計                             | 1,499 | 1,496 | -3    |

- 米国では、第1四半期のNexium™ の調剤錠剤数量は15%伸び、PPI市場の処方伸び率の2倍近い伸び率を示しました。総処方数のマーケットシェアは3月に27.5%に達し、2004年3月より2ポイント近く上昇しました。米国の報告ベースのNexium™ の売上は、昨年第1四半期に生じた卸在庫増の影響を受け、わずか3%増にとどまりました。当期は売上成長に対する価格の影響は殆どありませんでしたが、当社は、通年の数量ベースの成長は、価格の低下によって一部相殺されると予想しています。
- Nexium™ の米国以外の第1四半期の売上は30%増でした。
- Prilosec™ の米国の第1四半期の売上は34%減でした。Losec™ の米国以外の売上は22%減少しましたが、日本の売上は引き続き伸長しました (22%増)。

### 循環器

|                                 | 第1四半期 |       | CER % |
|---------------------------------|-------|-------|-------|
|                                 | 2005  | 2004  |       |
| Seloken™ / Toprol-XL™<br>(セロケン) | 408   | 333   | +21   |
| Atacand™                        | 235   | 209   | +7    |
| Plendil™<br>(スプレンジール)           | 93    | 111   | -19   |
| ゼストリル                           | 87    | 105   | -22   |
| クレストール                          | 273   | 129   | +106  |
| 合計                              | 1,257 | 1,055 | +15   |

- Seloken™ / Toprol-XL™ の第1四半期の売上は、主に米国のToprol-XL™ の売上増 (24%) が寄与し、21%増でした。
- Atacand™ の第1四半期の売上は7%増でした。米国以外の売上は19%増でした。Atacand™ の米国の処方数は9%減でしたが、2004年第1四半期の卸在庫増の影響を受け、報告ベースの売上は18%減でした。
- 2月23日に、Atacand™ は、米国でアンジオテンシン受容体阻害剤としては初めて、心不全の適応に対する承認を取得しました。この承認は、心不全患者の心血管系疾患による死亡率および入院が減少したことを示すデータが根拠になっています。
- クレストールの第1四半期の売上は、対前年同期比106%増の2億7,300万ドルでした。過去12ヶ月間の売上は10億5,200万ドルに達しました。
- クレストールの米国以外の第1四半期の売上は1億1,900万ドルでした。スタチン市場の数量ベースのシェアはカナダ (12.2%)、イタリア (11.8%) およびオランダ (10.4%) において二桁台となりました。フランスでも良好な進捗が続き、最新月にはマーケットシェアは5%に近づいています。英国のマーケットシェア

は、昨年末に報告された数値よりやや減少し、3.5%でした。

- 米国において、 Crestor の第1四半期の売上は1億5,400万ドルでした。3月の米国スタチン市場の新規処方における Crestor のシェアは、1月の5.8%からさらに伸びて、6.0%でした。4月15日終了週において、新規処方の Crestor のシェアは6.2%でした。ダイナミックセグメント（新規患者および他剤からの切り替え患者）におけるマーケットシェアは8.3%でした。
- 3月14日に、米国食品医薬品局（FDA）は、1,500万件以上の処方数および400万人以上の患者さんを含む臨床試験安全性データおよび市販後データの詳細な分析に基づき、パブリックシチズンのヘルスリサーチグループ（HRG）による Crestor の販売中止要求を正式に却下しました。
- Crestor の日本における発売は、4月27日に発表されました。発売後、特定の医療機関において製造販売後調査を実施しますが、その期間は18ヶ月から24ヶ月を要すると予想されます。2006年後半に本調査の中間報告を予定していますが、それまでは日本において Crestor の大きな売上は予測されていません。調査の結果を踏まえて、計画の見直しをしていきます。

### 呼吸器および炎症

|            | 第1四半期 |      | CER % |
|------------|-------|------|-------|
|            | 2005  | 2004 |       |
| Symbicort™ | 247   | 188  | +23   |
| パルミコート     | 314   | 282  | +8    |
| Rhinocort™ | 92    | 81   | +13   |
| アコレート      | 28    | 30   | -7    |
| Oxis™      | 23    | 25   | -16   |
| 合計         | 746   | 648  | +11   |

- Symbicort™ の第1四半期の売上は23%増の2億4,700万ドルでした。2月に、急成長中のぜん息とCOPD(慢性閉塞性肺疾患)の配合剤市場における Symbicort™ のマーケットシェアは前年同月比2ポイント以上伸長しました。
- 後発品メーカー数社の訴えがあったものの、Symbicort™ の欧州複合特許は依然として有効であると欧州特許庁が採決したことを、当社は3月9日に発表しました。
- パルミコートの売上は、米国での売上増（11%）およびその他地域での売上増（5%）により、8%増加しました。
- Rhinocort™ の売上は13%増でした。米国での売上増（20%増）は、2004年第1四半期の卸在庫増の影響を受け、処方傾向（4%減）を上回るものでした。

### オンコロジー

|           | 第1四半期 |      | CER % |
|-----------|-------|------|-------|
|           | 2005  | 2004 |       |
| カソデックス    | 277   | 229  | +16   |
| ゾラデックス    | 231   | 213  | +3    |
| アリミデックス   | 256   | 166  | +49   |
| イレッサ      | 81    | 93   | -15   |
| Faslodex™ | 29    | 26   | +8    |
| ノルバデックス   | 28    | 31   | -13   |
| Total     | 905   | 762  | +14   |

- カソデックスの第1四半期の売上は、日本の堅調な業績（21%増）を含む米国以外の市場における18%の成長に牽引され、16%増でした。米国の第1四半期の売上は11%増で、約4%と推定される実質売上増を上回りました。
- アリミデックスの第1四半期の売上は49%増でした。これは、米国（63%増）、欧州（42%増）、および日本(38%増)における力強い成長によるものです。アリミデックスは、早期乳がんの主要な術後療法に適応をもつ唯一のアロマトラーゼ阻害剤です。
- 米国では、乳がんのホルモン療法におけるアリミデックスの新規処方シェアが3月に31.4%に達し、2004年12月より1.3ポイント上昇しました。
- イレッサの第1四半期の売上は15%減の8,100万ドルでした。アジア太平洋地域における売上は18%増でしたが、これには2月に発売を開始した中国の売上も含まれます。日本の売上は、前年同期比8%減の2,600万ドルでした。第1四半期中に、日本の厚生労働省は検討会を開催しました。同検討会は、日本におけるイレッサの適応症等、使用に関する変更は勧告しませんでした。添付文書中に日本肺癌学会の「ゲフィチニブ使用に関するガイドライン」を参考にすることを記載するよう勧告しました。
- イレッサの米国における第1四半期の売上は、41%減の3,000万ドルでした。売上の殆どは、従来の投与患者さんのうち、主治医と相談のうえイレッサによる治療の継続を希望した患者さんに対して調剤された処方により占められていると考えられます。米国では、FDAとの話し合いが継続している間、イレッサのプロモーションは自主的に中止された状態が続いています。3月には、米国におけるイレッサの新規処方数は、2004年11月の水準を70%近く下回りました。

## ニューロサイエンス

|        | 第1四半期 |      | CER % |
|--------|-------|------|-------|
|        | 2005  | 2004 |       |
| セロクエル  | 633   | 448  | +39   |
| ゾーミッグ  | 68    | 95   | -32   |
| ディプリバン | 107   | 122  | -14   |
| 局所麻酔剤  | 127   | 130  | -7    |
| その他    | 17    | 17   | -6    |
| 合計     | 952   | 812  | +14   |

- セロクエルの第1四半期の売上は、米国（35%増）、欧州（56%増）、カナダ（35%増）、およびアジア太平洋地域（20%増）の好調な伸びにより、39%増の6億3,300万ドルでした。
- 米国ではセロクエルの売上は35%増でしたが、これは、卸が目標範囲の上限まで在庫を増やしたため、約28%と推定される実質売上増を上回ったものです。3月には、米国の新規処方のマーケットシェアは28.6%で、2004年12月に対して1ポイント増、最も接近している競合メーカーを2.8ポイント上回っています。
- 当社は、最近FDAより、セロクエルを含むすべての非定型向精神薬の添付文書を改定し、これらの薬剤を服用している痴呆関連精神病の高齢患者における死亡リスクはプラセボ服用患者に比べて高いことを示すブラックボックスを用いた警告を追加するように要請を受けました。また、提案された警告には、これらの薬剤は痴呆関連精神病の高齢患者の治療には承認されていないことも示されています。当社は現在このFDAの要請を検討中です。
- 米国以外の市場におけるゾーミッグの第1四半期の売上は12%増でした。
- 米国では、3月31日の契約終了を控えて、Medpointe社に対するゾーミッグの供給販売高は、わずか900万ドルでした（80%減）。2005年4月1日付けで、アストラゼネカはゾーミッグの米国における販売の全責任を担うことになりました。

地域別売上

|     | 第1四半期 |       | CER % |
|-----|-------|-------|-------|
|     | 2005  | 2004  |       |
| 米国  | 2,500 | 2,279 | +10   |
| 欧州  | 2,165 | 1,875 | +8    |
| 日本  | 337   | 290   | +12   |
| その他 | 741   | 630   | +11   |

- 米国における第1四半期の実質売上成長率は、2004年第1四半期に生じた卸在庫増調整後、17%と推定されました。第1四半期の成長を牽引した主な製品はNexium™、クレストール、セロクエル、Toprol-XL™ およびアリミデックスでした。
- 欧州の売上増には、Nexium™ (31%増)、オンコロジー製品 (22%増)、セロクエル (56%増)、Symbicort™ (23%増) およびクレストール (115%増) が寄与しています。
- 日本の第1四半期の売上はオンコロジー製品 (14%増) およびオメプラール (22%増) の堅調な業績を反映しています。

## 財務レビュー

伸び率は恒常為替レートベース (CER)

### 営業実績

報告ベースで売上は13%増、営業利益は38%増でした。恒常為替レートベースでは、売上は9%増、営業利益は34%増でした。

米国の第1四半期の売上は、在庫レベルが「在庫管理契約」に規定されている目標レベルに近かったため、卸在庫の変動に影響を受けませんでした。しかし、2004年第1四半期の売上は在庫変動によるプラス影響を受けました。これを調整すると、報告ベースの売上増10%に対し、米国の実質売上成長率は17%と推定されます。欧州の売上は、システムをアップグレードする目的で短期間営業を停止したため第1四半期末に納入が前倒しされたことにより、推定5,000万ドルのプラスの影響を受けました。

米ドル安により1株当たり利益は約1セントのプラス影響を受けました。前年同期と比較し、米ドルはユーロに対して5%安となり売上に対しプラス影響を与える一方、スウェーデンクローナと英ポンドに対しては、それぞれ6%安、3%安となり、コストを押し上げました。年末までの期間これらの為替レートが現在のレベルで推移した場合、さらなるプラス影響が生じることは期待できません。

報告ベースでの営業利益率は20.7%から25.3%と4.6ポイント改善しました。為替による0.1ポイントのマイナス影響を考慮すると、実質改善率は4.7ポイントとなります。

売上総利益率は1.8ポイント減の75.4%でした。メルク社への支払いは、前年第1四半期より0.5ポイント低下し売上の4.5%でした。為替による売上総利益率への0.2ポイントのプラス影響とメルク社への支払い率の改善を考慮すると、実質的には2.5ポイント低下したことになります。実質売上総利益率の悪化要因としては、外国為替契約に関してIFRS (国際財務報告基準) による公正価値調整ならびに米国におけるMedpointe社とのゾーミング販売契約の終了があります。

全体として、研究開発費と販売・一般管理費は、継続的な厳しい経費管理と支出時期による第1四半期へのプラス影響により、前年比4%減の28億7,200万ドルでした。研究開発費と販売・一般管理費は対前年同期比で、それぞれ3%減、4%減となり、合計では、営業利益率に対し6.7ポイントのプラス影響をもたらしました。

金融商品に関する公正価値調整として第1四半期に総額4,400万ドルが計上され、このうち、2,300万ドルは売上原価として、2,200万ドルは研究開発費として計上されましたが、100万ドルは利息収入として計上されました。

### 利息・配当収入

第1四半期の正味利息・配当収入は、前年同期の3,200万ドルに対し、3,300万ドルでした。これには、従業員給付基金資産・負債に関してIAS (国際会計基準) 19号「従業員給付」に従って計上された正味利息収入500万ドルが含まれています。

### 税金

第1四半期の税率は、前年同期の26.3%に対し、29.8%でした。税率の上昇は、利益の地域別分布とIFRSの影響によるものです。通年の税率は約29%と予想されます。

### キャッシュフロー

営業活動による第1四半期のキャッシュフローは15億ドルで、2004年同期より約5億ドル増加しました。この増加は主に利益の増加と運転資本の減少によるものですが、納税額がやや増加したことにより一部相殺されました。

第1四半期の投資活動による現金支出は、前年同期の5億5,500万ドルに対し、2,900万ドルでした。固定資産投資を含む正味資本支出は、7,300万ドル減の2億2,600万ドルでした。しかし、この変化は主に預金資金の短期管理の結果であり、2004年第1四半期の2億6,500万ドルの支出とは対照的に、当期では1億5,800万ドルの収入がありました。

当期のフリーキャッシュフロー（株主への還元および財務活動を控除前のキャッシュフロー、すなわち、短期的な資金管理の効果は除外される）は、前年同期の7億2,100万ドルに対し、13億2,200万ドルでした。株式の発行および買戻しで正味4億7,700万ドルの支出、10億7,900万ドルの株主に対する配当の支払い、および外国為替の影響により、現金・現金同等物は8,800万ドル減少しました。

2005年3月31日現在の現金・現金同等物は、2004年3月31日現の7億4,200万ドルに対し、38億3,900万ドルに達しました。この大幅な増加は、2004年後半に短期預金を現金同等物に移行したことを反映しています。

### 株の買い戻しプログラム

当四半期中に総額4億8,100万ドルで普通株式1,195万株が買い戻され消却されました。

2005年3月31日現在、発行株式数は16億3,300万株です。

### カレンダー

---

|        |                 |
|--------|-----------------|
| 4月28日  | 年次株主総会          |
| 7月28日  | 第2四半期・上半期業績発表   |
| 10月27日 | 第3四半期・9ヶ月累計業績発表 |

トム・マキロップ卿  
最高経営責任者